

1. 文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や業務の過程で蓄積されたデータを基に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行う。また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進めるほか、研究成果の還元は学会、研究会等での発表・報告を行う。

科学研究費補助金

当研究所に所属する研究員は科学研究費補助金の出願が可能であり、積極的に申請して文化財に関する研究活動を進めている。科学研究費は研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任されている。また、補助事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、科学研究費については直接経費の30%が科学研究費間接経費としてその所属機関に措置される。

令和6年度の科学研究費補助金は、継続課題として科学研究費補助金によるものが1件、学術研究助成基金助成金によるものが8件、新規に採択された課題は学術研究助成基金助成金による課題1件であった。

(1) 継続研究課題

基盤研究 (A) 補助金

「地球温暖化による劇的環境変動に適応した石造文化遺産の調査・保存法の総合的研究」

令和4年度～令和7年度 田邊征夫 32,200千円 (研究期間直接経費合計額)

基盤研究 (B) 基金

「保存処理に起因する出土木製品の強度低下について ―調査と対策―」

令和3年度～令和7年度 川本耕三 13,800千円 (研究期間直接経費合計額)

「中性子非弾性散乱法による出土琥珀の産地推定」

令和4年度～令和7年度 山口繁生 12,700千円 (研究期間直接経費合計額)

基盤研究 (C) 基金

「寺院伝来の文献史料および文字史料の総合による中近世寺院史料学の構築」

令和2年度～令和6年度 三宅徹誠 1,900千円 (研究期間直接経費合計額)
(進捗状況遅れの為、延長)

「膠着剤のオリジナルな姿を後世に遺せるか ―大豆系膠着剤の可逆的な処理法を探る―」

令和4年度～令和6年度 大橋有佳 3,000千円 (研究期間直接経費合計額)

「木製品の構造と機能の調和に関する実証的研究 ―工学的解析を用いて―」

令和4年度～令和7年度 桃井宏和 3,200千円 (研究期間直接経費合計額)

「図化困難資料の活用を目指した3Dデータ取得・編集・出力に関わる研究」

令和4年度～令和6年度 初村武寛 3,200千円 (研究期間直接経費合計額)

「袋中良定開創寺院の総合調査による所蔵資料の研究資源化」

令和5年度～令和7年度 植村拓哉 2,300千円 (研究期間直接経費合計額)

若手研究

「水損した民俗文化財における鉄汚染被害の解明と対処方法の構築」

令和2年度～令和6年度 金澤馨 3,100千円 (研究期間直接経費合計額)
(進捗状況遅れの為、再延長)

(2) 新規研究課題

基盤研究 (C) 基金

「ユーラシア的視点による古墳時代の服装に関する研究 ―構造・素材・系譜の検証―」

令和6年度～令和8年度 木沢直子 3,500 千円 (研究期間直接経費合計額)

2. 文化財の調査 整理事業

文化財調査修復研究グループ

人文科学担当

総本山長谷寺 (桜井市)	総本山長谷寺文化財等保存調査整理事業
大本山室生寺 (宇陀市)	大本山室生寺古文書・聖教調査整理事業
釜口山長岳寺 (天理市)	釜口山長岳寺文化財総合調査および寺史編纂事業
愛媛県	札所寺院の史跡指定に係る文化財詳細調査

総本山長谷寺文化財等保存調査事業は令和6年度も継続して実施した。同事業は昭和61年から継続して実施しており、令和6年度で39年目となった。

令和4年度から着手した大本山室生寺古文書・聖教調査整理事業は3ヵ年計画の最終年度となり、成果の報告を行った。

令和5年度から着手した釜口山長岳寺文化財総合調査および寺史編纂事業も継続して行い、仏像彫刻、工芸品、石造物の調査を実施した。

世界文化遺産登録推進のための四国遍路札所寺院の文化財詳細調査業務は、愛媛県等で継続して行った。53番札所円明寺、57番札所栄福寺の調査報告書が愛媛県教育委員会より刊行された。

また、近畿圏内における美術工芸品・歴史資料を中心とした文化財調査事業は、桜井市聖林寺、御所市宝国寺にて実施し、宝国寺より成果をまとめた寺史が刊行された。

考古学担当

奈良市	平城京跡(左京二条五坊北郊) 発掘調査整理報告書作成業務(発掘調査・整理報告)
奈良市	平城京跡(右京一条二坊十一坪) 発掘調査整理報告書作成業務(発掘調査・整理報告)
和歌山市	津秦遺跡第19次発掘調査技術職員等支援業務 (発掘調査・整理報告)
京都市	泉涌寺開山堂及び開山塔学術調査業務 (発掘調査・石造品調査)
京都市	総見院織田家墓所五輪塔実測図および拓本整理業務
奈良市	春日大社社家墓地拓本採取

発掘調査は4件行い、奈良市内2件、和歌山市内1件、京都市内1件であった。奈良市内の発掘調査はいずれも平城京跡内である。平城京跡 (左京二条五坊北郊) では平城京以前に築かれたヤイ古墳や、大后寺に関わる可能性のある大溝などが確認され、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館で行われた「大和を掘る39」展で展示も行われた。和歌山市津秦遺跡の発掘調査では古墳時代から中世にかけての遺構・遺物が確認されている。京都市泉涌寺開山堂の発掘調査では基壇の中心付近から蔵骨器が出土し、開山に関わる遺物の可能性がある。上記4件については、令和7年度に整理報告書作成の予定である。

石造物調査については、令和6年度も人文科学部門と共同で四国遍路札所寺院の調査業務を継続して行った。

埋蔵文化財保存研究グループ

金属製品 土器担当

堺市博物館（大阪府） 大塚山古墳基礎整理等業務

令和2年度から、堺市博物館が所有する百舌鳥大塚山古墳出土遺物について遺物の種類・数量・状態を把握し今後の保存・復元・活用に向けた基礎整理を行ってきた。

令和5年度から、報告に向けての実測・トレース・報告業務を行っており、令和6年度も引き続き同様の業務を行った。

保存科学研究室

文化財を後世に伝えるには、保存処理後に資料の形状や表面状態などを定期的に調査することが必要である。また同時に、資料の劣化進行を抑えるためには収蔵環境が適切であるか否かを調査することも重要である。これらの調査の結果から、今後の改善策を提案している。

世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 金属製品のX線透過撮影

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群は、沖ノ島、及び宗像市及び福津市内にある宗像大社信仰や、大宮司家宗像氏にまつわる史跡・文化財を対象としたものであり、自然崇拝を元とする固有の信仰・祭祀が4世紀以降から継承されてきている点などが評価されている。本事業においては宗像大社神宝館に収蔵されている約八万点の国宝のうち、金属製品約四千点に焦点を当て、X線透過撮影による悉皆的な調査を行い、資料の状態を確認した。なお、撮影データはデータベース化され、インターネット上に一般公開されている（<https://www.munakata-archives.asia/frmSearchMetalDigitaPhotoList.aspx>）。

近つ飛鳥博物館（大阪府河南町） 重要文化財大阪府三ツ塚古墳出土大修理の保存状態調査

昭和53年から約15年をかけて保存処理した大修理について、平成7年から定期的に各部の寸法変化および表面状態を現地調査している。調査の結果、寸法については安定していることが確認できているが、資料表面には含浸薬剤の滲出による汚損が見られ、定期的なメンテナンスを要す状態である。

奈良市補助金事業 仏教民俗資料の収集調査

奈良市内所在石造文化財の調査（14）

奈良市内における石造物の悉皆調査は平成元年に報告書が刊行され、重要な石塔資料が多数報告された。これらの石造文化財の詳細な調査は文化財保護や歴史研究に重要な素材を提供するが、個別具体的な調査が実施されたものは少ない。

令和6年度も令和5年度に引き続き、奈良市内に所在する古式の宝篋印塔や五輪塔などについて詳細な調査を行い、情報開示を行った。

調査・研究の成果については『元興寺文化財研究所研究報告』に掲載し、奈良県内の教育委員会、図書館、博物館、大学をはじめとする全国の文化財関連機関に配布する。

3. 文化財の分析事業

保存科学研究室

文化財を自然科学的手法で分析することによって、その材質や構造等を明らかにし、産地や年代等を推定することができる。分析には、金属などの材質分析に用いる蛍光X線分析、漆などの有機質の材質分析に用いる赤外分光分析、内部構造を観察するためのX線透過撮影やX線CT、微小部を観察するための各種光学顕微鏡および電子顕微鏡などを用いる。

愛知芸術文化センター 木村定三コレクション鏡架に係る分析

故木村定三氏の遺族から愛知県美術館に寄贈された高麗鉄地金銀象嵌鏡架の分析を行った。資料は高麗時代の朝鮮半島において作製された交差式の鏡架である。交差式の鏡架は高麗時代の上流階級でのみ使用されたものであり、韓国でも類例が少なく、大変貴重な資料である。

資料の全面には宝相華唐草文が象嵌で表されており、高度な金工技術が用いられている。X線CT撮影・蛍光X線分析・電子顕微鏡観察により、使用箇所による金線銀線の使い分けや平象嵌の嵌め込み方、鏡架の製作技法についての知見が得られた。

岡山県古代吉備文化財センター 鹿角装大刀の分析

肉眼観察において有機質材料製と考えられる鞘口装具、把縁突起付き把縁装具を有する大刀の分析を行った。X線CT撮影、及び蛍光X線分析から、有機質材料は動物の角と考えられた。また、X線CT撮影による断面観察像からは、把縁装具に施された鉤状の凸加工や、把縁装具の把縁突起が別材で製作されていることが確認された。

4. 文化財の保存修復事業

文化財調査修復研究グループ

伝世資料担当

観心寺（大阪府河内長野市）	重要文化財「鉄燈籠」の保存修復及び支持体作製
（公財）江川文庫（静岡県伊豆の国市）	重要文化財「パン焼き鉄鍋」の保存修復
豊橋鬼祭保存会（愛知県豊橋市）	重要無形民俗文化財「黒鬼古面」の保存修復
名古屋大学（名古屋市）	図書館所蔵文書の修復
大阪府河内長野市	引札の修復

観心寺の「鉄燈籠」は、現在京都国立博物館に寄託されている状態であり、令和4年に特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺—真言密教と南朝の遺産」で展示された資料である。金属の劣化が進んだため令和6年度での保存修復と保管・展示のための支持体の作製を行い寄託先の京都国立博物館へ納品を行った。併せてX線CT撮影等を用いた銘文の解読も行い、既存解読分に加え、数文字を確定・推測することが出来た。

（公財）江川文庫所蔵の「パン焼き鍋」は、幕末に活躍した伊豆菰山代官の江川 垣庵^{たんなん}が開発・製造した「兵糧パン」についての関係資料の内製造に活用したパン焼き鍋の劣化に伴う保存修復と今後の保管環境の改善のための保管・展示ケースの作製を行い無事完了納品した。

「黒鬼古面」は、安久美神戸神明社（豊橋市）で催される国指定重要無形民俗文化財の豊橋鬼祭に使用されるお面である。お面の新調に伴い、オリジナルの鬼面の損傷が進んでいたため修復

となった。修復では、小麦澱粉糊を用いて和紙を材料に行った。口部分は特にオリジナル形状へ戻すことができ、制作当時の状態が分かる修復となった。

京都市伏見区に所在する近衛天皇陵（正式には安楽壽院南陵）の多宝塔内にある彩色の保存修復を行った。本事業は、過去に再溶解性の無い材料で修復が行われた彩色層の本格的な修復を行う前のテストケースであった。実際に柱等の一部に修復作業を行うことで材料や手法などを検討し、報告書として提出を行った。

文書・絵図類等の紙資料の修復事業は漉^{すき}嵌^めほう^{ほう}法、繕^すい、裏^う打^{うち}ちなどの技法を用い、資料の原形を損なわない修復を原則として進めている。名古屋大学図書館所蔵の文書は令和2年度から継続し漉嵌法による修復を行った。

埋蔵文化財保存研究グループ

木製品担当

福井県立若狭歴史博物館（小浜市）	重要文化財 ^{とりはまかいづか} 鳥浜貝塚出土品の保存修理
徳島県	重要文化財 ^{かんのんじ} 観音寺・敷 ^{しき} 地遺跡出土品の保存修理
岩手県平泉町	重要文化財平泉遺跡群出土品の保存修理
宮崎県えびの市	^{しまうち} 島内139号地下式横穴墓出土漆製品の保存処理
福島県三島町	^{あらやしき} 荒屋敷遺跡出土品の保存処理
公益財団法人アイヌ民族文化財団	国立アイヌ民族博物館における収蔵品の保存修復
千葉県柏市	^{なかば} 中馬場遺跡出土草摺 ^ば の保存処理

重要文化財の修理として、昨年度に引き続き福井県若狭町鳥浜貝塚（縄文時代前期）出土品および徳島県観音寺・敷地遺跡（飛鳥～平安時代）出土品の保存修理を行った。また、新たに平泉遺跡群出土品（平安時代）の保存修理を行った。

そのほか、宮崎県えびの市島内139号地下式横穴墓（古墳時代）出土矢柄等の脆弱な漆膜、福島県三島町荒屋敷遺跡出土木製品（縄文時代）についても昨年に引き続き保存処理を行った。さらに、国立アイヌ民族博物館収蔵品である丸木舟2艘（江戸時代）の保存修復および千葉県柏市中馬場遺跡（中世）出土草摺の保存処理を行った。

金属製品 土器担当

＜金属製品＞

福岡県行橋市	重要文化財 ^{いなどう} 稲童古墳群出土品の保存修理
広島県立歴史博物館（福山市）	重要文化財草戸千軒町遺跡出土品の保存修理
茨城県かすみがうら市	重要文化財 ^{かぜかえし いなりやま} 風返稲荷山古墳出土品の保存修理
京都大学総合博物館（京都市）	重要文化財 ^{きたまいたに} 北米谷出土骨蔵器の保存修理
島根県出雲市	重要文化財 ^{かみえん やつきやま} 上塩冶築山古墳出土品の保存修理
宮崎県えびの市	^{しまうち} 重要文化財島内地下式横穴墓群出土品の保存修理

重要文化財の修理としては、令和5年度より引き続き、福岡県稲童古墳群（古墳時代）出土品の保存修理、広島県草戸千軒町遺跡（鎌倉時代から室町時代）出土品の保存修理、宮崎県島内地下式横穴墓群（古墳時代）出土品の保存修理を行った。

また新規に、京都大学総合博物館所蔵兵庫県宝塚市北米谷出土骨蔵器（奈良時代）の保存修理を行った。継続事業として、令和6年度から2ヵ年で茨城県かすみがうら市風返稲荷山古墳（古墳時代）出土品の保存修理、令和6年度から3ヵ年計画で島根県上塩冶築山古墳出土品（古墳時代）の保存修理に着手した。

<土器>

茨城県常陸大宮市	重要文化財茨城県泉坂下遺跡出土品の保存修理
徳島県	重要文化財徳島県矢野遺跡出土品の保存修理
愛媛県松山市	重要文化財愛媛県朝日谷二号墳出土品の保存修理
和歌山県	重要文化財和歌山県大日山35号墳出土品の保存修理
大阪府藤井寺市	重要文化財大阪府城山古墳出土水鳥形埴輪の保存修理
島根県出雲市	重要文化財島根県上塩冶築山古墳出土品の保存修理

重要文化財の修理としては、重要文化財茨城県泉坂下遺跡（弥生時代中期）出土壺形土器、重要文化財徳島県矢野遺跡（縄文時代後期）出土深鉢形土器の保存修理を実施した。また、令和3年度から4ヵ年にわたり実施していた重要文化財愛媛県朝日谷二号墳（古墳時代前期）出土壺形土器の保存修理と、令和4年度から3ヵ年にわたり実施していた重要文化財和歌山県大日山35号墳（古墳時代後期）出土家形埴輪・胡録形埴輪の保存修理を完了した。また、令和6年度より、重要文化財大阪府城山古墳（古墳時代）出土水鳥形埴輪、重要文化財島根県上塩冶築山古墳（古墳時代後期）出土子持壺などの保存修理を実施している。

5. 研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

秋季特別展 『内部を視る～文化財とX線～』※宗教法人元興寺と共催

開催期間 10月26日（土）～11月17日（日）

開催場所 元興寺法輪館

文化財に対するX線透過撮影は、その文化財の内部をX線で透視することで、劣化の状況や内部構造、部材の組み合わせ、別素材による加飾の有無だけでなく、過去の修理状況も明らかにできる非破壊の調査方法である。

文化財へのX線透過撮影は、昭和53(1978)年に埼玉県稲荷山古墳出土鉄剣から115文字の金象嵌を当研究所で発見したことが契機となり、埋蔵文化財の調査や修理の現場で広く利用されるようになった。その後、埋蔵文化財だけでなく、民俗文化財、仏像、土層など多くの文化財の調査や修理に利用されて、今日では、全国各地の調査機関等で数多くの成果が得られている。

平成22(2010)年には、国宝東大寺金堂鎮壇具の金銀荘大刀二振りに「陽劔」、「陰劔」と象嵌された文字を当研究所で行ったX線透過撮影により発見し、国家珍宝帳に記載された除物であることを明らかにするような歴史的発見があった。

本展覧会では、当研究所で行ってきたX線透過撮影のこれまでの成果をとりあげ、文化財修理・調査におけるX線利用の歴史や、その果たしてきた役割を紹介した。

あわせて、この期間中に増澤文武名誉研究員・同理事による特別講演会「元興寺文化財研究所におけるX線事始め」を開催、また研究員による展示解説も開催した。
開催期間中の展覧会場への入場者数は7,000人以上であった。

文化講座の開催

実践文化財学 講座編「文化財から歴史を読む」

当研究所が創立以来半世紀以上にわたって行ってきた元興寺の歴史や文化財に関する人文、考古、保存科学などの各分野からの多面的調査や研究の蓄積と最新の成果を、研究所所員がわかりやすく報告した。

開催日

6月12日（水）「古文書材料の科学調査」大橋有佳
9月11日（水）「石造物の保存修理について」金澤 馨
10月 9日（水）「平城京跡をめぐる新知見 ―「修理」銘瓦と平城京北辺坊」江浦 洋
11月13日（水）「考古学からみた琉球のあゆみと文化」瀬戸哲也
12月11日（水）「出土遺物の取り上げ」下野 聖

場 所 総合文化財センター・ループ館3階 研修室
時 間 13：40～15：10
受講者数 72名

展覧会等の開催支援及び文化財活用事業

文化財企画活用担当

展示支援事業としては、昨年度に引き続き「発掘された日本列島2024」展の展示支援を実施した。また、各部門における保存台・保存箱については国宝福岡県宗像大社沖津宮祭祀遺跡出土品（福岡県宗像市）、重要文化財福岡県^{いなどう}稲童古墳群出土品（福岡県行橋市）、重要文化財熊野阿須賀神社境内出土品（和歌山県新宮市）、重要文化財草戸千軒町遺跡出土品（広島県立歴史博物館）、重要文化財愛媛県朝日谷二号墳出土品（愛媛県松山市）、重要文化財丹後湯舟坂^{ゆふねさか}二号墳出土品（京都府京丹後市）、重要文化財和歌山県大日山35号墳出土品（和歌山県）などの保存処理・修復に伴う保存台・保存箱作製を実施した。

また、三次元計測を利用した復元・複製品の作製も含めた積極的な事業展開を進めており、令和6年度も、宮内庁正倉院事務所から委託を受けて正倉院宝物の三次元計測ならびに保存台作製や、東奈良遺跡出土銅鐸鎔范（大阪府茨木市）保存台作製、東広畑古墳出土銀象嵌円頭柄頭（兵庫県福崎町）のレプリカ作製、宮ノ内遺跡（愛媛県西条市）出土金銅舍利容器のレプリカ作製、熊本城跡出土（熊本市）甲子銘金象嵌鉄刀の修理前レプリカ作製を実施した。

さらに、昨年度に現地保存応急処置を行った「一般国道312号線大宮峰山道路事業関係遺跡（幾坂古墳群）漆塗り革盾保護養生業務」については、漆塗り革盾を遺構ごとに取り上げ、現場のある山頂から保管場所までの移動に国内で初めてヘリコプターによる輸送を実施した。また、奈良県富雄丸山古墳の木棺や新潟県燕市石港遺跡の大型板材、京都府亀岡市千代川遺跡の木樋の取り上げ、大阪府茨木市郡遺跡・倍賀遺跡の木棺墓の養生を実施した。

『発掘された日本列島2024』展

平成20年度から受託している文化庁と開催各館とが主催する『発掘された日本列島』展の開催と運営に関する業務について、令和6年度も継続して受託した。

業務内容は、本展出陳物の集荷・納品に係る梱包・輸送、出陳物の点検・展示・撤収、展示パネル・キャプションのほか関連資料の管理、開催予定各館との調整など多岐にわたり、開催館は以下の5館で、大阪府は2館の分散開催となった。総入場者数は約30,000人であった。

千葉県立中央博物館(令和6年6月8日～令和6年7月15日)

弘前市立博物館(令和6年7月27日～令和6年9月16日)

大阪府立弥生文化博物館(令和6年10月5日～令和6年12月8日)

大阪府立近つ飛鳥博物館(令和6年10月5日～令和6年12月8日)

大野城心のふるさと館(令和7年1月5日～令和7年2月16日)

元興寺文化財管理業務

世界遺産元興寺と所有文化財の管理指導として、境内施設環境の管理と法輪館の展示管理業務等を行った。

6. 報告書、書籍等の刊行

7. 体験活動

施設見学等

研究、調査成果を社会に還元し、文化財保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として、博物館実習、施設見学を受け入れた。総合文化財センターにおいては、実践文化財学講座に合わせ一般個人向けの施設見学会を開催した。

開催日は、5月8日(水)、6月12日(水)、10月9日(水) 11月13日(水)、12月11日(水)の計5回で総参加者数は24名であった。

なお、団体見学については、業務に支障の無い範囲で日程を調整しながら随時受け入れた。

博物館実習の受け入れ

奈良大学(10名)、近畿大学(1名)、京都女子大学(5名)の計16名を受け入れた。

その他

帝塚山大学(26名)、京都府立大学(25名)、龍谷大学(30名)、大谷大学(30名)、関西大学(19名)、京都橘大学(51名)、京都芸術大学(15名)、大阪大谷大学(1名)、奈良県立高円芸術高校美術科(30名)、奈良県立高円芸術高校デザイン科(30名)、渋谷学園中等部(6名)、奈良大学(37名)天理大学(6名)、大手前大学(9名)、日本ミュージアムマネジメント学会(6名)計12団体(321名)の見学を受け入れた。その他、NPO法人大阪府高齢者大学校(38名)、JICAの研修を受け入れ(研修員9名の他2名で計11名)座学と研究所内の案内を行った。

さらに海外から、雲南省西南林業大学(2名)、山東省文物保護・鑑定センター(6名)韓国全南大名誉教授金潤受(2名)、韓国チョクセム馬具チーム(釜山大学関係者)(4名)の案内を行った。

また、石造物研究会(67名)、全国歴史資料保存利用連絡協議会(35名)、科学研究費報告会(60名)など、3団体の研究会を受け入れた。